



ふるに長く入って上がると、ふらふらするのはなぜ

ふらふらするのは、めまいを起こすから

ふるに長く入って上がると、ふらふらするのは、めまいを起こすからです。めまいというのは、じっさいには体が回っていないのに、回っているように感じることです。回っていないのに、回っていると、思いちがいをしているのですが、このように感じる原因になっているのは、耳のおくの内耳です。

長い間、熱いふるに入っていると、皮ふが赤くなってきますが、これは、皮ふのすぐ下にある血管が広がって、血液が、体の表面に集まってくるためです。

わたしたちの体にある、血液の量は決まっていますから、血液が、体の表面に集まってくるということは、体のどこかには、血液の少ない、貧血になるところができるのです。

もし、内耳にくる血液の量が少なくなり、貧血になると、体の位置を感じる内耳のはたらきがおかしくなり、じっさいには体が回っていないのに、ふらふらしているように感じるのです。つまり、めまいが起こるのです。

内耳のしくみとはたらき

内耳には、体のかたむきや回転方向、どの方向にどのくらい強く動かされたかを感じとる、前庭および三半規管という、感覚器があります。

三半規管の根元にはふくらみがあり、その中には、感覚細胞をもつクプラというものがあります。そして、三半規管の中はリンパ液で満たされていて、体が回転したり動いたりすると、中のリンパ液が動くのでクプラも動き、動いていることを感じとるのです。

(監修・保志 宏)

